

3月会議一般質問を

傍聴して



上原 洋子
(松の実)

去る3月5日、令和3年3月会議一般質問第2日目の一部分を傍聴させていただきました。

私は、小布施町の「保育の質」に関心があるので、議員が質問する時間に合わせて傍聴席に座りました。

議員が「保育の質の確保について」質問し、教育次長から小布施町の保育の現況が報告されました。議員から再質問もありました。質問と答弁から、現在の課題は、2019年10月から幼児教育・保育の無償化が実施され、未満児保育入所の申込が増加したことと(特に認定こども園栗が丘幼稚園)、保

育士の確保が難しいとのこと等でした。

未満児が増え、保育室が狭いのではないかと等の問題が提起されました。これらの課題・問題点については、町の限られた予算の中であっても子どもの権利を保障するため、子育て世代を支援するために、最優先で対応していただきたいと、町民の一人として強く思いました。

保育の現場を経験した方が、議員として活躍されていることは心強いと感じました。具体的な「保育の質」については、まちづくり委員会等で議論されていますので、多くの方に関心をもっていました。

私自身、かつて長年にわたり小布施町の幼稚園・保育園へ勤務し、子どもたちが成長する感動的な場面に数多く立ち会えたことは、大きな財産になっています。

これからも、小布施町の保育の質がより良く確保されることを願っています。

編集後記

今年1月に桜井新町長が誕生し初めての令和3年3月今議は3月1日から19日まで開催しました。予算特別委員会審査、23議案、人事案件について活発な質疑が出され審議を行いました。

町長の「すべての人が幸せになる町を目指します」スローガンの実現に、議会としても全力で取り組み尽力してまいります。

議会だよりをこのメンバーで発行することは今号が最終となりました。2年間8回お届けしました。この間台風19号による甚大な災害、そして、新型コロナウイルスの発生により状況が一変し、世界中の人々がこれまで経験したことのない不自由な生活を余儀なくされました。議会においても一般質問の短縮や議会報告会・意見交換会の中止・延期など皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

まもなくワクチンの接種が始まりコロナアフターの生活が待たれます。オリンピック・パラリンピックの無事開催を念じつつ広報委員一同、皆様のご協力に感謝を申し上げます。



発行責任者	関 悦子
議長	関 悦子
議会広報常任委員会	
委員長	中村 雅代
副委員長	竹内 淳子
委員	関 良幸
	小淵 晃
	関 明生
	渡辺 建次
	関 悦子

No. 104

2021.4.20

発行 長野県小布施町議会

議会だより おふせ



- 新年度予算の概要…………… P 2～3
- 予算審議・質疑…………… P 4～7
- 1月・2月・3月会議の内容(補正・条例改正など) …… P 8
- 人事案件 特別委員会報告…………… P 9
- 一般質問…………… P 10～20
- 議会日誌…………… P 21
- 傍聴記 編集後記…………… 裏表紙

災害復旧へ 感謝の伝統桜満開
～千曲川ふれあい公園～

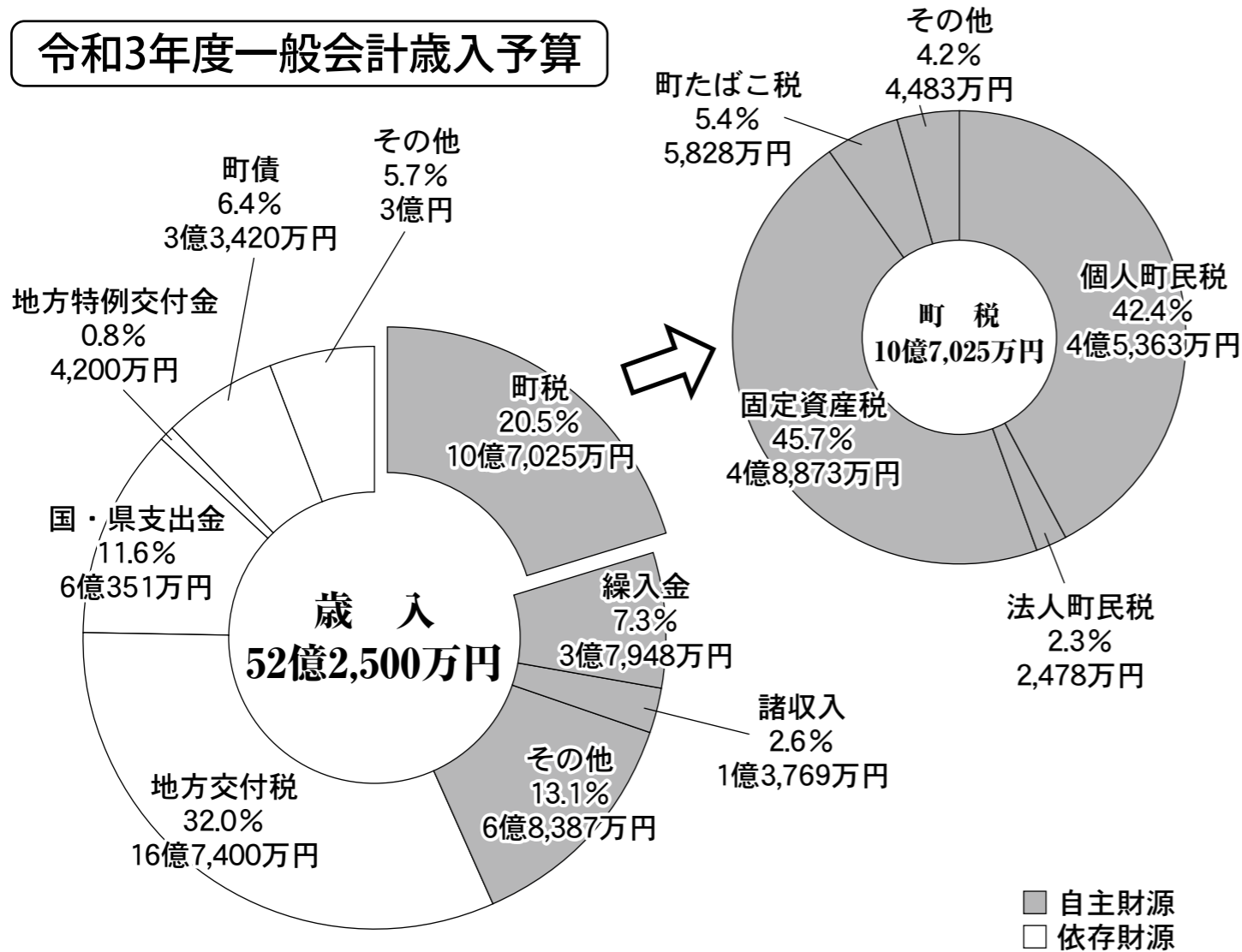
52億2,500万円（前年度比 3億4,900万円の増）を可決

3月会議は、3月1日(月)より3月19日(金)までの19日間の日程で行いました。審議内容は、条例の一部改正7件、令和3年度予算7件、令和2年度補正予算5件、その他4件の計23議案のほか、追加議案としての議員提案2件と人事案件(教育長や農業委員会委員9名など)

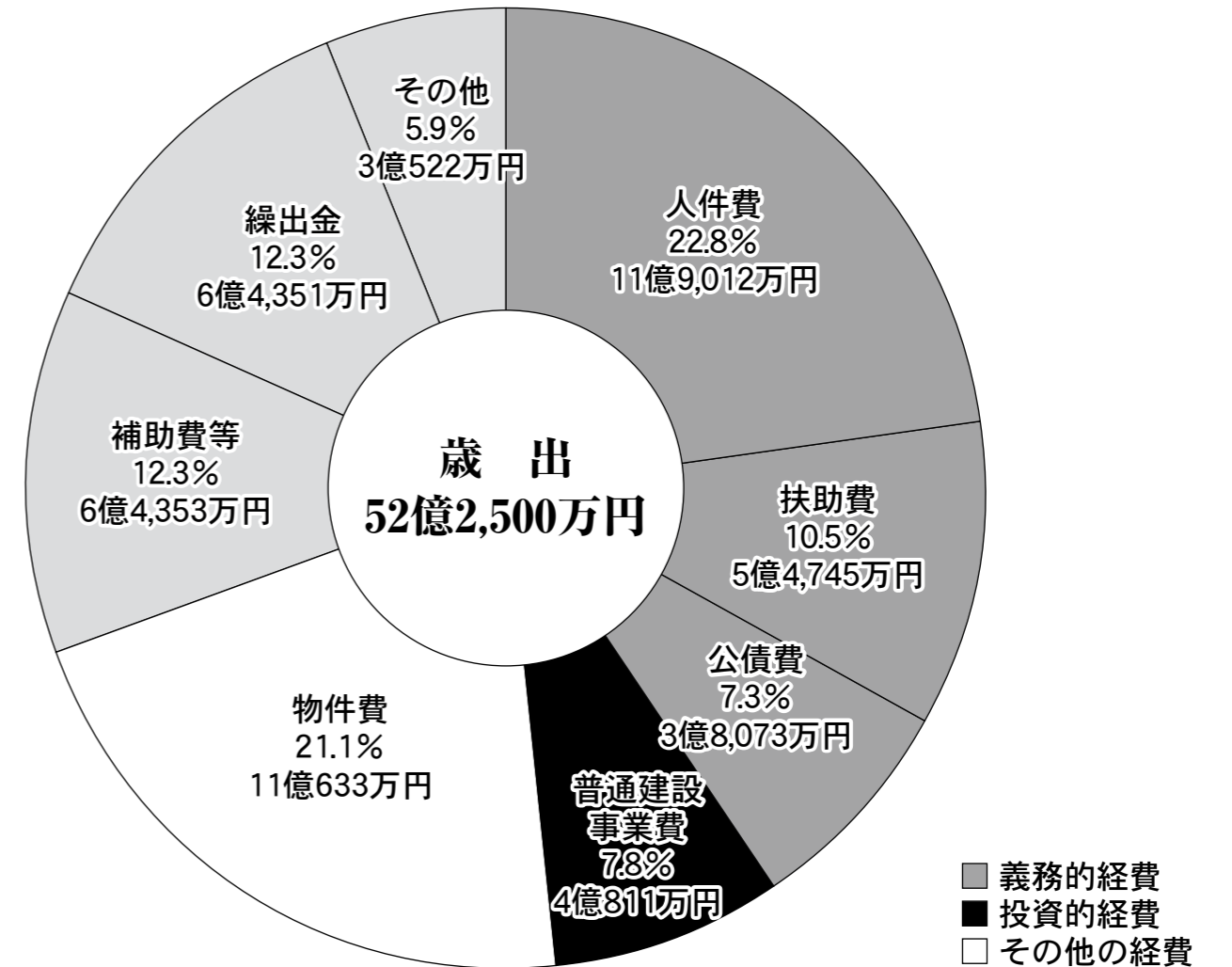
12件を、原案どおり可決しました。

なお、令和3年度の議会会期を、令和3年3月1日から令和4年2月28日までの365日間と決めました。

令和3年度一般会計歳入予算



令和3年度一般会計歳出予算(性質別)



主な歳入項目の説明

町税	新型コロナウイルスの影響による減収を考慮。「個人町民税」は前年度比4.1%減、「法人町民税」は前年度比37.1%減
ふるさと応援寄附金	前年度比42.9%増の5億円を見込む
繰入金	財源不足を補うため、「財政調整基金」や「ふるさと応援基金など」より繰り入れる
町債	実質的な町債額は2億4,600万円建設町債は、道路・水路等の整備の他、小・中学校特別教室棟のエアコン整備など

主な歳出項目の説明

人件費	一般職員の給料や会計年度任用職員の報酬など
公債費	借換債分を除いた実質的な公債費は2億9,253万円
普通建設事業費	橋梁補修工事、おぶせガイドセンター修繕工事、中学校特別教室棟エアコン整備工事、トレーニングセンター大規模改修工事など
物件費	災害対策用備品、中学校教科書指導書、地域おこし協力隊業務委託料、国土強靱化基本計画策定委託料など
補助費等	地域おこし協力隊活動費補助金、企業支援補助金、北信保健衛生施設組合負担金など

令和3年度の予算を慎重に審議

令和3年度の一般会計及び特別会計を予算特別委員会(小林一広委員長)で審査しました。

第1分科会は総務課・財務課・企画政策課・産業振興課・建設水道課を、第2分科会は健康福祉課・教育委員会の所管にかかわる予算を慎重に審議いたしました。数多くの質疑がありましたが、その中からいくつか要旨を列記します。

《第1分科会》

【歳入・財政係】

- Q町民税(4億7,841万円)は、前年比3,397万円減であるが算出根拠は。
- A個人分(4億5,363万円)はコロナ禍の影響を見て県の見込み同様前年比95%で算出。法人分(2,478万円)はコロナ禍による減少を見込んだ。
- Q固定資産税(4億8,873万円)は、前年比1,745万円減であるがその理由は。
- A中小企業に対するコロナ禍による減免を見込んだ。

【総務費・企画係】

- Q基幹系システム共同化負担金(2,853万円)の内容と委託先は。
- A役場全体のシステムの構築。自治振興組合に委託予定。
- Qおぶせ交流館管理費(155万円)は新たに指定管理にしたにもかかわらず前年比増となったのはなぜか。
- A利用者増により光熱費等の経費が増えたことによる。
- Qふるさと納税事務業務委託料(2,200万円)の内訳と委託先は。
- A寄付金5億円の4%+消費税で、農産物事情に詳しい町内の業者に委託予定。

【総務費・財政係】

- Q公共施設等総合管理計画改訂業務委託料(326万円)の内容は。
- A平成23年作成したものを改定するものである。

【総務費・定住交流係】

- Q地域おこし協力隊業務委託料(1,720万円)と活動費補助金(773万円)の内容は。
- A1人増で6人となり、委託料1人270万円で前年より30万円増となった。活動費は、家賃や車のリース料などの補助である。
- Q東大先端研共同研究委託料(170万円)は何年計画なのか。成果目標を設定し事業を進めるべきではないか。
- A5年が終わり新たに3年を予定。東大とよく打ち合わせて成果が出るようにしたい。

- Q東大先端研、慶応SFC等の学生の活動を住民に理解を得られるように広報の充実を図るべきではないか。
- A町報1月号で活動の特集したがより広報の充実を図りたい。
- Q定住促進事業費の中にUターンを促進する事業は含まれているのか。
- A単独の事業はないが、楽園信州推進協会への参加(負担金2万円)と商工振興係で長野地域UJIターン就職促進事業負担金として20万円を予定。

【総務費・総務係】

- Q防災まちづくり研究委託料(100万円)の長野高専とは何年を目途に行うのか。
- A令和3年度から3年間の予定。
- Q防災対策費の備品購入費(320万円)の内訳は。
- A災害対策用備品として、令和2年は食料品・水の備蓄を進めたが、令和3年はトイレ2基、防災無線デジタル化8台を予定。

【農林水産業費・農業振興係】

- Q農業次世代人材投資事業資金経営開始型(1,350万円)及び準備型(150万円)の算出根拠は。
- A経営開始型は5年間で2夫婦、準備型は2年間で2人を予定。



- Q収入保険掛金助成事業補助金(143万円)の算出根拠は。
- A30%補助で40人を想定。
- Q小布施ファーマーズ活動交付金(170万円)の内容は。
- A3年計画の3年目で、マルシェ等の出店及び販路拡大にかかる経費を支援。

【商工費・商工振興係】

- Qおぶせガイドセンター修繕工事費(1,008万円)の内容は。
- A建物の基礎部分の修繕費。
- 【土木費・建設管理係】
- Q道路補修事業費(1,874万円)、水路新設改良事業費(6,602万円)は、優先順位はどのように選定しているのか。
- A地域のバランスを考慮しながら順次実施。水路は町の下流部を優先して実施。

【消防・総務係】

- Q千曲川右岸堤防水防活動工事費(3,319万円)の土囊設置区間と前年度の100m当たりの単価の差異は。
- A越水地点に設置。前年度は早急な事業で入札ができなかったが今回は入札で経費節減を図る。

《第2分科会》

【民生費・生涯学習係】

- Q部落解放関係団体補助金(312万円)は、前年度はコロナ禍で活動が滞り支出は減額していると思われるが、今年度が同額予算である理由は。
- A今年度も活動状況によって決算で清算する。

【民生費・福祉係】

- Q成年後見支援事業委託料(240万円)の委託先とその理由は。
- A専門的な対応ができ、3市町村の窓口として内容を充実させるために須坂市社協に委託。委託料は、3市町村の人口割などで算出。

【民生費・保育園】

- Qファミリーサポートセンターの現状は。
- Aもともとボランティアベースで行ってきた。依頼会員は増えているが、高齢化などに伴い提供会員が少なくなってきた。

【民生費・健康係】

- Qおぶせスタディ実施委託料(300万円)の内容は。
- A平成26年から29年の4年間、第1期として毎年100名の

方に調査・検査を実施。平成26年度に実施した方を対象に、第2期調査を新生病院に委託する。

- Q産後ケア事業委託料(80万円)の内容と委託先は。
- A産後ケア事業の強化を目的とし、育児不安の人のために信州医療センターや北信病院、産婦人科や助産院に委託。

【民生費・住民係】

- Q環境美化運動の日事業費(25万円)の内容と見直しは。
- Aゴミゼロの日として5月30日に県下一斉に実施。各自治会でよろずぶしんの名で実施。苦情の多い栗葉処理は別途考えたい。
- Q不法投棄防止の対策についてはどのように考えているか。
- A不法投棄の傾向として河川敷が多いので新たに立て看板を設置し啓発したい。

【教育費・生涯学習係】

- Q高井鴻山記念館及びおぶせミュージアムの土地借上料(70万円・885万円)に関して今後の見直しはどのように考えているか。また、購入を検討していく必要があるのではないか。
- A毎年値下げ交渉をしているが、2施設だけでなくすべての借上料については購入が可能か否かを含めて検討していきたい。
- Q体育団体補助金(240万円)の Slack ライン 推進機構への内訳は。
- A120万円。国内大会を開催することを前提に前年度と同額の予算とした。
- Q小布施シアター活動交付金(130万円)は、クラウドファンディングなどを検討すべきではないか。
- A県の補助金が終了し町に要望があり文化的事業として必要と判断した。
- Q文化・スポーツ団体への補助金は、期限を設けて団体自らが自立していくことが必要なのではないか。
- Aこれら補助金は、トータルするとかなりの金額になっていることは事実。財政改革の一環として検討していきたい。



今年度から指定管理となったおぶせ交流館

令和3年度予算に対する付帯決議、予算委員会から提出

※付帯決議とは——委員会が議案を可決する際に当該委員会の意思を表明するものとして行う決議のこと。

予算の執行にあたり、下記の事項について対応することを強く求める。

1 ふるさと応援寄付金は年々増加しており、町のさまざまな事業に活用されています。

しかし、近年返礼品に対する制度改正が行われており社会経済状況の著しい変化の中で、今後の制度内容や年ごとの寄付金額は不透明で不安定な状況になると思われます。

ふるさと応援寄付金の活用及び関連する事業に

関しては、計画的及び効率的に行うとともに歳出の抑制を図り執行されたい。

2 住民団体への各種補助金及び交付金については、団体の自立した活動を促し、継続して実施されることと、また、財政的にも自立できるように支援するものであり慣例的に交付することなく活動実態を把握し、適正な支出をするよう十分配慮されたい。

令和3年度 予算要望と回答

議会から要望した6事項に対する町の回答を下記にまとめました。

要望1

子どもの健全育成や高齢者の生活を守るため、保育士、放課後児童支援員、介護福祉士、保健師、栄養士及び図書館司書等専門職の人材の確保を図られたい。

回答

専門職の確保は、町にとって喫緊の課題と認識しているが、業務必要量から判断すると雇用するには無理があるので、県機関の支援を要請し現場につなぐ。保育士の正規採用を増員します。

要望2

コロナ禍の影響による経済的な問題を抱えている町民へは、相談窓口の案内などきめ細かな対応を心掛け、個々の実情に応じた支援ができる体制の充実を図られたい。

回答

町民への相談体制については、健康福祉課が就業支援が必要な場合には産業振興課がそれぞれ担当し、必要な支援先につなぎます。現時点では、経済相談はほとんど寄せられておりませんが、総合的な相談窓口を開設し全庁的な対応と継続的なフォローを行える仕組みづくりを検討してまいります。

要望3

町税、貸付金等の滞納が危惧される中、納税相談の対策を講じるとともに、町財政運営に支障が生じないように未納額の回収に努められたい。

回答

分納等納税方法を相談しておりますが、コロナ禍の影響による町税未納の対応に苦慮しています。滞納整理を強化するとともに、丁寧な相談に応じてまいります。

要望4

町職員の研修は、時代の変化に要する研修に加え、質の高い町民サービスを提供できる職員の育成を目指すため、知識の習得や先進地視察の機会拡大を図る予算の確保を行っていただきたい。

回答

職員の健康管理や職場環境の改善は重要な課題となっています。メンタルヘルスやハラスメント防止など毎年必ず全職員向けに実施し、各職場の共通認識の醸成を図ります。また、「人材育成基本方針」の見直しを行い知識習得に取り組みます。

要望5

補助金及び交付金については、交付団体の運営対象となる各種イベントが補助金の依存体質になっていないか、その対象や町内外の波及効果を見極め、期限を設けるなど見直しの検討をし、予算計上をしていただきたい。

回答

波及効果が図られていると考え予算計上しています。団体の重要な財源となっていることから、協議を続けながら必要性を確認し見直し等を検討します。

要望6

地球温暖化対策における温室効果ガス削減を目指すため、国・県の補助金を視野に、具体的な施策を行えるように取り組んでいただきたい。

回答

昨年度、世界首長契約に署名し、公共施設から排出される温室ガスの現状分析を行った。3年度は、成果を広く町民に発信し、施策への関心を高めるとともに、国・県の補助金を活用し推進に取り組んでまいります。

本会議で賛否が分かれた議案

	寺島弘樹	水野貴雄	関良幸	竹内淳子	中村雅代	福島浩洋	小林一広	小西和実	大島孝司	小淵晃	関谷明生	渡辺建次	小林正子	議長は採決には加わらない
小布施町組織条例の一部を改正する条例	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
おぶせ交流館の指定管理者について	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
小布施町介護保険条例の一部を改正する条例	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和2年度小布施町国民健康保険特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和2年度小布施町後期高齢者医療特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和2年度小布施町介護保険特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和3年度小布施町一般会計予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和3年度小布施町国民健康保険特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和3年度小布施町後期高齢者医療特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
令和3年度小布施町介護保険特別会計補正予算	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
小布施町教育長の任命	反	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	

●賛成討論● 小西和実議員

令和3年度の一般会計当初予算は、総額52億円余りで前年対比7.2%の増加であり、歳入の主なものとして、町税は前年対比マイナス4.3%、地方交付税は6.6%の増で1億300万円の増、国庫支出金も6.8%の増で3,843万円が見込まれています。また、ふるさと応援寄付金は前年より1億5,000万円多い5億円を見込んでいます。改めて小布施町を応援くださっている多くの皆様に感謝を申し上げます。

歳出の新たな施策や重点施策のうち、幼保小中一貫教育では「IT環境の充実と生活実態調査の実施」、体育施設整備事業では「トレーニングセンター大規模修繕工事」を、また、防災まちづくり事業では「千曲川、松川の災害想定調査研究費」、経済対策では、新型コロナウイルス感染による影響を受けている方々への支援や新たな起業家への支援による活力と賑わいのある街づくりを目指しています。

福祉関係では、生活支援コーディネーターの配置により、共生社会の構築を進め、また、教育関係では引き続き、小中学校に「不登校対策生活支援員」を配置し、積極的な支援をしていくこととしています。新型コロナウイルス感染症の影響により今後の地域経済は不透明な状況が続くと思われませんが、予算執行に当たっては桜井新町長が掲げる町民の皆さんの「幸せ」のための町政が運営されることを願い、令和3年度一般会計予算の賛成討論といたします。

●反対討論● 小林正子議員

一昨年の台風19号災害に続き新型コロナウイルス感染の拡大に見舞われ、私たちの生活は大変苦しい状況にあり、町政は町民の生活が少しでも良くなる施策が求められています。

ところが「小布施の町政は外向きだ」と言う声が聞かれ、特に国保税の負担が重いなどきめ細やかな施策に欠けています。また教育では障がいのある児童の放課後の居場所が町にはなく、長野市・須坂市・中野市の関係機関を利用せざるを得ない状況が何年も続いたままです。老人福祉センター桃源荘に至っては施設の老朽化が深刻であり建て替え要望が強いにもかかわらず計画は一向に進んでおらず、避難所としての環境整備も不十分でありエアコン設置の予定すらありません。

その他、人権同和政策費の減額、さる・カラスなどの鳥獣被害対策の充実、水路計画の練り直し、未登記の町道の登録、高井鴻山記念館の老朽化対策及び防火対策など町民の願いをしっかりと受け止め町政に生かしていただきたい。

そして、職員が健康でいきいきと働ける職場環境の改善を整備し、町民の命と生活を守り、町民の声なき声が届く町政への転換を期待します。

人事案件

◆小布施町教育長の任命について…同意

- ・中島聡（74歳）雁田
任期：令和3年4月1日から3年間

◆小布施町農業委員の任命について…同意

- ・関口実夫（69歳）伊勢町
・竹内邦広（60歳）中条
・三田和彦（57歳）東町
・牧けい子（65歳）六川
・島津忠昭（62歳）大島
・岩崎博行（67歳）六川
・小林春代（59歳）大島
・小林広幸（55歳）北岡
・平松幸明（54歳）林
- 任期：令和3年5月13日から3年間

◆国定資産評価審査委員の選任について…同意

- ・藤本則夫（69歳）松村
任期：令和3年3月27日から3年間

◆人権擁護委員の推選につき意見を求めることについて…適任

- ・小林けさえ（67歳）清水
任期：令和3年7月1日から3年間

新たな議会活性化検討特別委員会 中間報告書

令和元年9月会議において設置され、新たな活性化に関する事項について、町民に身近に開かれた議会を目指すため設置以降11回開催、調査研究を進めてきました。

3月会議において付託された検討事項等について中間報告が行われました。

検討事項

- ・議員定数、議員報酬及び政務活動に関する事項
- ・住民からの信頼を得る活動に関する事項
- ・地域力の低下（議員のなり手不足）への対応に関する事項
- ・その他委員会が必要と認める事項

現在まで検討結果

- ・令和元年に設立されていた「議員のなり手不足検討会」委員と本特別委員会との意見交換会を実施（※令和2年2月26日に実施済み）
- ・議会アシスター会議を立ち上げ、議員と町民の話合いの場を設け、広く町民に呼びかけ公募で委員に参加してもらう。（令和2年3月決定）
- ・令和2年12月で議会アシスター会議より提言された、「議会報にQRコードを掲載しYouTube動画の配信について」は、令和3年1月号から試験的に導入するものとする。今後、導入については引き続き検討し、予算等の確保を含め配信を研究する。

今後について

- ・引き続き議会アシスター会議において、提言された事項について意見の集約を行い検討する。
- ・議員定数については、本年4月において現議員の任期が残り2年となる。本年2月での議会アシスター会議において意見の集約として方向性を示されたことから、議会内部での議論を重ね、選挙1年前を目途に結論を出す方向としている。

3月会議（3月1～19日）

条例 [可決]

- 小布施町組織条例の一部を改正
- 小布施町福祉医療費給付金条例の一部を改正
- 小布施町介護保険条例の一部を改正
- 小布施町指定居宅介護支援事業者の指定の基準の改正
- おぶせ交流館の指定管理者
一般社団法人ハウスホクサイ
- 小布施町体育施設の設置条例の一部を改正
- 小布施町国民健康保険条例の一部を改正
- 小布施町指定介護予防支援事業者の指定の基準条例の改正
- 長野広域連合規約の変更
長野広域連合規約の変更に伴う財産処分
長野市及び小布施町における連携中枢都市
圏形成を変更する連携協約の締結

【一般会計(補正第13号)】 [可決]

歳出	179,459千円
ふるさと納税促進事業費	150,026千円
地方創生推進事業費	△21,000千円
一般職人件費	1,318千円
戸籍事務費（システム委託料）	1,496千円
参議院長野県選出議員補欠選挙費	1,081千円
高齢者福祉事業費	4,054千円
高齢者在宅支援事業費	1,700千円
自立支援給付事業費	19,300千円
ごみ分別処理費	△3,025千円
農業振興費（経営支援事業）	6,059千円
農地対策費（土地改良事業）	27,813千円
予備費	△8,835千円

●小布施町国民健康保険特別会計補正予算 [承認]	684千円
●小布施町後期高齢者医療特別会計補正予算 [承認]	1,799千円
●令和2年度小布施町介護保険特別会計補正予算 [承認]	10,008千円

1月会議（1月18日）

公用車の衝突による損害賠償 1件 341,000円

【一般会計(補正第11号)】 [可決]

歳出	23,777千円
国民年金電算システム改修委託	83千円
町営グラウンド北側道路改修	1,067千円
学生応援支援給付金	4,007千円
中学校火災報知機更新	5,500千円
幼稚園遊戯室空調整備費	8,203千円
北斎イベント負担金	5,000千円
予備費	△83千円



町営グラウンド北側道路改修

2月会議（2月12日）

【一般会計(補正第12号)】 [可決]

歳出	16,849千円
コロナ・ワクチン接種事業費	16,849千円

核兵器禁止条約への日本政府の署名・調印と
批准を求める意見書 [採択]

「敵基地攻撃能力」の保有に反対し平和外交を
推進する意見書 [採択]



小西和実議員

コロナ禍への経済対策について

久保田副町長

地方創生臨時交付金が使えれば検討したい

Q 町内事業者の皆さんにとって厳しい状況が、昨年の10月台風19号災害以降ほぼ1年半ほど続いているのが現状です。

非常事態宣言解除後も今日に至るまで新型コロナウイルスの影響は大きく、観光向け小売業、宿泊業、飲食業などの町内事業者の売り上げは対前年比で3割程度の売り上げにとどまるところも多数あったと伺っています。

そんな中で国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用して、小布施町ではプレミアム商品券の発売やリフォーム工事補助事業などの第一弾、第二弾を含め、そのほかにも多数の対策を行いました。

その経済対策の効果と、今後の経済対策の必要性についてはどう考えているのでしょうか。

スーパープレミアム商品券」など商工業者への支援を前回の施策を改善して第2弾を行っていますが、現段階でのこれらの施策の効果として、どのように状況の把握をしているのか伺います。また、早くてもまだ1年程度はコロナ禍による影響は続いていくと想定されています。今後さらなる町内の経済対策が必要ではないでしょうか。

A 行ってきている事業者の皆さんへの支援は、一つは直接的な支援で協礼金や支援金など、もう一つは消費の喚起を目的としたプレミアム商品券の発行と住宅リフォーム補助金です。

事業主への支援の経済効果を数値等で示すことは難しいですが、家賃補助金などは国の支援策を補てんできたと考えられます。

令和3年度には地方創生臨時交付金として9千324万8千円が交付される見込みであり、今後経済対策の事業が認められれば、支

援策として実施の検討をさせていただきます。

町内行事やイベント開催の自粛徹底を大宮課長 参加をお願いする行事については個別具体的に検討し判断していく

Q 例年行われている、町が主催もしくは後援の町内行事や、イベントの開催について町民の方々から不安を感じているというところで、多くのお声をいただいています。

特に町外から人を集めてしまう行事やイベントについて、開催の中止を強く希望される声を多くいただいています。

最近では、小布施ミニマラソンについて、実行委員会から今年7月の開催中止が発表されました。2年連続の中止ということで、関

係者の皆様はご判断に大変ご苦労されたと思いますし、苦渋の選択であったことと推察いたします。しかしながら、ほかの自治体でも広く人を集めてしまう行事やイベントについては、その多くが中止又は延期となっており、これが現状の世界の世論の現れであると思われれます。

町外の方との交流も大切ですが、町民の健康、そして命、そして少しでも安心安全に生活のできる環境を整えることが最優先されるべきことではないでしょうか。

今後も継続して町内行事やイベントの自粛を徹底していくべきではないかと思いますが、お尋ねいたします。

A 感染拡大状況を踏まえながら、できる限り町内行事やイベント等については、実施ができる可能性を模索していきたい。ただし、多くの町民の皆様には実施の可否について町民の皆様の声を踏まえて個別ごとに具体的な検討を行い、判断していきます。

新町政運営、3つの柱の指針「繋ぐ・育む」は、どのような考えなのか 更に素晴らしい町に育てることが、私の使命と考えています



福島浩洋議員

Q 桜井町政として3つの柱を町民に具体的に述べていただきたい。

A 「繋ぐ」高品質な農作物を小布施ブランドとして定着させるために事業者との連携強化、安全でおいしい農作物、それを味わえる町にしたい。近隣市町村と連携して更に地域の魅力づくりを進めたいと考えています。

「整える」小布施に住むことで、

小布施に来ることでも心も身体も健康になれる町、そして里山の風景をまた、心休まる風景を壊さないように注意をしながら自然エネルギーを取り入れていきます。

「育む」安心して育児ができる環境、人生を安心して全うすること、これは自治体の基本と考える。小布施町ならではの心と身体の成長の、環境づくりに努めます。

なお、27自治会の皆様との協力体制については、それぞれの地域性を活かし皆様の声を伺い柔軟な対応と施策を行ってまいります。

Q 松川の堤防の安全安心に ついては一昨年の台風19号被害後、町は県や須坂建設事務所と前向きな協議を現在までどのように行われてきているのか。

A 昨年度11月会議において「防災・減災、国土強靱化等に向けた社会資本整備の促進を求める意見書」を議決、県でも「5か年

加速化対策事業」による事業を継続して行うと聞いています。町としても、引き続き上流部の河道整備や支障木の撤去等が早急に着手されるよう要望していきます。

また、堤防内部のX線による内部透視調査や地点を決めてボーリングサンプリング調査も議会や町の方々の声として須坂建設事務所に伝えており、日頃からパトロールを実施し、堤防や護岸の状況を把握し、現在は良好な状態と聞いています。

Q 松川の浸水を想定した沿岸地域の「わが家の避難計画」(マイタイムライン)はどのように進めているのかお聞かせください。

A 大宮総務課長答弁 令和4年度に沿岸自治会を防災訓練の重点地区に指定し、作成の講習会や水害を想定した防災訓練を実施します。今年度は4年度に向けて県や長野高専と連携



上松川橋付近の河床



上松川橋付近の流域堤防



竹内淳子議員

認定こども園・保育園・小中学校一貫教育の今後の方針について

藤沢教育次長

「小布施町幼保小中一貫教育推進委員会」との協働・連携を強化してまいります

Q 当町の第6次総合計画の重点施策に、子どもを中心とした地域の連携づくりがありま

す。「子どもを中心に据えた園・学校と地域の連携強化を進め、多主体・多世代が一緒になって小布施の教育環境づくりを推進します。」の実践の一つとして、小布施学園コミュニティースクールの

運営があります。子どもたちは社会の中で育っていきます。学校と家庭だけでなく地域の人々との関わりが子どもの社会性を育てます。教えられる関係でなく見守ってくれる存在としての地域の人たちの存在はとても重要だと思えます。小布施学園コミュニティースクールは学校と地域を、子どもを通じて多世代がつながり合う地域づくりの機能的なツールとして存在し、さらに育てていく必要があると思っています。

そこで、小布施学園コミュニティースクールを導入してからのみえている成果と問題点、今後の方針についてお聞きします。

A 月に1回幼保・小学校・中学校・ボランティア委員会を開催し、子どもの声を反映した地域に開かれた園・学校づくりに資することを目的に活動を進めています。今後は保育士や教職員で組織する「小布施幼保小中一貫

教育推進委員会」との協働・連携を強化してまいります。また、会の取り組みについて町報やホームページなどを通じて情報発信に努めたいと思います。

学校給食における食材の認定について 有機米導入の検討を

藤沢教育次長

地産地消・旬産旬消を大切に有機米導入も検討します

Q 子どもたちの育ちにおいて食の重要性は非常に高いものであります。また、コロナウイルス感染症が流行している今、

免疫力を高めることが非常に大切です。それには、ミネラルの多い野菜や腸内細菌を整える発酵食品が効果をあげます。アジア太平洋臨床栄養学会長の渡辺昌医師の研究では米食が腸内免疫系を安定させコロナウイルス感染症後の重症を抑える効果があるというデータ



関 良幸議員

桜井新町長による町政の新たな展開について

桜井町長

公約を実現していくため、まず職員との対話の場を重ねていきたい

Q 桜井町長が掲げられた公約や各メディアなどに語られたビジョン・抱負について、いくつか質問したいと思えます。

A まず、「町全体で六次化産業の仕組みを作ります」とあり、野菜を例にとり「農業と商業を結び付けて、まず加工品の成功例を作りたい」と語られています。主要農産物である果物については、現在考えておられるもの、構想がありましたらお聞かせください。

まずは食べていただくことが必要です。振興公社やケーキシヨップ等で町内産の果物を使った加工品でその美味しさを知っていただき、生食用の販売を促進したい。

Q 「町長選で町内を回り、郊外の道路、側溝などのインフラも改善点がたくさんある」と語られています。私も、以前から観光客がたくさん訪れる町中心部と郊外部との道路状況の落差を感じていたところですが、具体的

にどんなことを見て感じて、どのように施策に落とし込んでいこうと考えておられるのでしょうか。

A 町中と郊外の道路の整備状況に落差があると感じています。町中であれば郊外であれば、行政サービスは平等であるべきです。現在、地元からの要望も踏まえ、地域性や優先度などに配慮し実施し、水路等については影響の大きい郊外から事業に取り組んでいます。限られた町財源の中で整備を進めていきたい。

Q 「産学官の橋渡しをするユニバーシティ・エンゲージメント・センターを作ります」とありますが、構想をお聞かせください。各大学の活動については、成果が分からない、存在すら知らないという方もおられる現状にあって、どのようにセンターの活動につなげていくのかお聞かせください。

A 現在、東大先端研、慶應SFC、慶應SDMとの連

携、東大大学の地域実習の受入れ、信州大学、長野高専が活動を行っています。新年度は、各大学との連携事業の情報交換、共有、また交流の場として協働のまちづくりフォーラムを開催し、大学同士や町民による新たな連携や事業創出、町民との交流を目指します。

Q 「育む」の中に、「帰ってきたいまちづくり」に努めまるとあります。これは、学業などで一旦町を離れた若者たちが帰ってきたいまちづくりを目指すものと理解しました。人口維持、定住促進の観点からも重要なことであると思えます。町内の若者が帰ってきたときに活躍できる場の創出や、帰ってきたくなる施策が必要と思えますが、考えをお聞かせください。

A これには二つの意味があり、一つは小布施に生まれ、外に出てそして帰ってくる人たち、もう一つは「小布施を第二の故郷」と思い、小布施が大好きな人たち。

があります。また、できるだけ農薬などの少ない腸内消化に負担のない米が有効ということ。また、調理に使われる油にもアレルギー反応を起こす場合があります。食材を選ぶ必要があります。成長期の子どもたちに大切な食の一部を預かっている学校給食です。学校給食の食材として、地元で採れたものを優先的に選定するなど基本的な考え方についてお聞きします。また、町内で栽培されている有機米を給食にとりいれることを検討されますか。

A 地産地消・旬産旬消を大切に考えています。生産者さんと給食センターの双方にとって良い方法を検討していきます。また、生産者の皆さんと話し合いを行い有機米の使用を検討します。食物アレルギー発症数の多い原因食物使用回数を減らしたり、使用していない食品を選んでいきます。

いずれにせよ、小布施町が彼らにとって特別な町でなければなりません。「ここならば、自分が生き生きできると思ってもらえる町」でありたいと思えます。

Q 町長の公約を速やかに実現するためには、組織を活性化させ、職員の皆さんが町長の考えを十分理解し、モチベーションを高めてもらうことが必要不可欠です。職員は、台風災害の復興、コロナ禍での対策などでかなり疲弊し、また悲しいことが続いたことからかなり落ち込んでいます。これらのではないかと考えます。これらのケアも含め、どのようなことをしてモチベーションを高めようと考えているのか、お聞かせください。

A 職員が業務に余裕をもって、創造的で前向きに取り組めるような体制づくり、一人ひとりの状況を踏まえた働き方を受け入れられる仕組みづくりを財政的な裏付けも検討しながら早急に整備していきたい。職員との対話に基づく組織目標を共有し、一丸となって業務に邁進できる体制を作ること、モチベーションの向上につなげたい。職員がどのような考えや課題をもって業務に取り組んでいるかを把握し、職場の環境改善に取り組んでいきます。



関谷明生議員

新型コロナウイルスワクチン接種の啓発と迅速で分かり易い情報提供に努めて欲しい

益満健康福祉課長補佐 ワクチン接種コールセンター開設や同報無線、町ホームページ等で、適切な情報発信に努めます

Q

昨年1月16日国内初の新型コロナウイルス感染症が確認され、それから1年3か月が経ちました。また長野県では昨年2月25日に感染が発覚しましたが、現在に至るまで終息の気配が見えません。

そんな背景のなかコロナ対策の

救世主として、米製薬大手ファイザーの治療薬ワクチンが開発されました。このワクチンの効果は臨床試験で新型コロナウイルス感染症の発症率を95%抑えると言われています。ワクチン効果は「感染予防」「発症予防」「重症化予防」の三つがあると言われています。予防接種法に基づき妊婦を除き16歳以上の人に接種は「努力義務」であり強制ではありませんができるだけ町民に働き掛けるべきと考えます。

また、接種期間（2月17日～来年2月28日）を過ぎてからの治療費、アナフィラキシー、副反応が生じた場合の治療費はどうなるのでしょうか。また各年代の接種率の目標はどのように考えていますか。

A 発症や重症化の予防、そして社会全体で流行するのを防ぐことが期待されています。海外の治療から発熱などの発症や重症化を防ぐものと考えられています。

ワクチンは、感染の予防、発症や重症化の予防、そして社会全体で流行するのを防ぐことが期待されています。海外の治療から発熱などの発症や重症化を防ぐものと考えられています。

ワクチン接種が進むかどうかは、ワクチンの供給状況とワクチン接種に対する理解も必要です。ワクチン接種に不安を抱く方もいると思います。町としても町民の皆さんが安全安心して接種されるよう適切に情報をお伝えし接種勧奨を考えています。接種期間後の治療費は国から示されておりません。各世代の接種率の具体的な目標は定めにくいいため、全体として7割以上を目標にしています。

Q

既接種者が21日の期間を空けて2回目の接種を迎えます。1回目接種者との重複への対応はどう考えていますか。

A 本町は6診療所主体の個別接種が主となると思いますが、米ファイザー社のワクチンはマイナス75度前後の超低温で、ディープリザー（超低温冷凍庫）による保管が必要で、基本型接種施設（信州医療センター）からサテライト型接種施設（新生病院）へ、そし



サテライト型接種施設（新生病院）

A

1回目接種者が2回目をしっかりと接種できるようにしていきたい。

ワクチンは、メーカーから保冷ボックスで基本型接種施設へ配送されワクチンの管理をします。基本型接種施設からサテライト型接種施設へは、保冷バッグを用い2～8℃の温度で移送します。移送は、現時点では運送業者への委託を予定しています。移送委託料は4月の補正予算で審議をお願いしたいと考えています。



小林正子議員

子どもたちの学習と成長を保障し、ウイルス感染症からまもる「20人学級」の推進を

中島教育長 桜井町長 現状では難しいが県に訴え続けながら長期的に検討したい 予算等を考慮しながら長期的に検討したい

Q

新型コロナウイルスにより、児童生徒は大変な生活環境に置かれ、「学校の新しい生活様式」が実践されてきました。三密を避ける対策をどう講じていますか。

「三密」回避は「20人学級」が理想です。休校明けに分散登校、授業が実践されました。学級と児童の分断を心配しましたが、効果的に実践されたと聞いております。分散授業をされた先生方は、「子どもたちの勉強への吸収力がすごい」

「授業時間が短くても、よく理解できていた」

「子どもたちとのやりとりがとても密にできた」

これらの実践の中で「少人数学級の必要性」が改めて認識され、子どもたちのケアと学びの保障、感染防止の点からも小布施町において更なる少人数学級の実現が必

要です。

全国知事会や校長会も文科者に「少人数学級」を要望してきました。教職員組合、PTA、市民の署名も毎年取り組まれ、本年度も町議会で請願が採択されました。今年コロナ禍の体験を通じて国は、40年ぶりに学級定数を改めました。2013年から小布施は県下で

先がけ、35人以下学級にし、県と町の財政負担のもとに小中学校とも少人数学級が続けられました。国が少人数化を進める分、町の財政負担も減少します。20人をめざして更なる少人数学級の実現を求めます。

A

児童・生徒の健康管理にについては健康チェック表により家庭での健康観察をお願いし、学校で確認しています。階段手すりやドアノブの消毒、手洗いの徹底などに取り組んでいます。全員がマスクを着用し、授業中は児

Q

桜井新町長は、公約に「繋ぐ」「整える」「育む」を町

「育む」の公約実現に「更なる少人数学級化」を

桜井町長 必要性を認識できた課題のクリアを考えたい

童・生徒の間隔を最大となるように配置、更に一授業で2回換気を行っていきます。学校で陽性者が確認されましたが、感染拡大が認め

られなかったことから一定の効果があったと考えます。国は、小学1年生の35人学級を来年度から順次引き下げることとしました。町としての更なる少人数化には5千万円ほどの予算や教員不足などもあり難しく、更なる少人数化については県に継続的な要望をしまいたいと考えています。

A

少人数学級の30人へ、20人へと進めることが、子どもたちの学びやコロナ感染予防に必要なことを、議員の質問で学ばせていただいた。教師の確保や予算など、これら



の実現は予算等を考慮して検討したいと考えます。



渡辺建次議員

おでこポイント制度事業の

実施状況と検証は

永井健康福祉課長

全体で482名が参加。男性の参加が少ない

町は、令和2年4月1日

より12月31日まで（ポイント交換は令和3年1月31日まで）、

65歳以上の町民を対象とした「おでこポイント」制度の実施実験を行いました。これは高齢者の外出を促し、検診受診率の向上及び住民同士の交流支え合いの活性化を図ること。具体的には介護予防教室やボランティア活動、また公民館講座等に積極的に参加したりして、健康寿命の延伸につなげたいという目的で行われました。事業の概要は、ポイント対象事業の参加者に、ポイントを付与（1ポイント50円相当で年間一人60ポイント3000円まで）し、町内事業所で使える町の商品券「おでこ商品券」と換券するものです。

①この事業の参加実績者数やポイントの交換状況などについて伺います。
②一年間の実施実験の結果の検証と課題は何でしょうか。

①人口割合12・9%のうち女性が68%男性が32%でした。「おでこ商品券」の交換は、198名の25万4500円でした。70代が多く、「学び・交流」分野に参加されたことの付与が最も多かったです。

②課題としては、男性の参加者が少ないこと。ボランティアの担い手発掘に働きかけることができたのかでした。
雪かきなど冬のボランティア活動へポイントが付与できるよう期間を延長したい。

中央教育審議会は、働き方改革の方策で、「給食費の管理は教育本来の仕事ではない」と指摘。文部科学省は、全国の教育委員会に公会計化（自治体の会計に組み入れる制度）を求め

る通知を出しています。現在の小中学校の給食費の徴収方法や滞納状況は。
給食費の徴収方法は、小中学校とも口座振替で、現在、滞納者はありません。徴収事務は、町で任用している学校事務職員が行っており、直接教員への負担は生じておらずと認識しています。

認知症予防として、シニアの絵本読み聞かせボランティアの養成を
永井健康福祉課長
読み聞かせの活動が自主的に広がるよう働きかけを行っていきたい

読み聞かせの効果が啓発に努め高齢者同士で読み手になったり聞き手になったりして意識の醸成を図りながら地域での脳のリフレッシュ教室の関係者や認知症カフェのボランティア活動において、よい取り組みとして紹介させていただき、読み聞かせの活動が自主的に広がるよう働きかけたいです。



中村雅代議員

当町における発達特性に応じた学習環境づくりの推進について

中島教育長

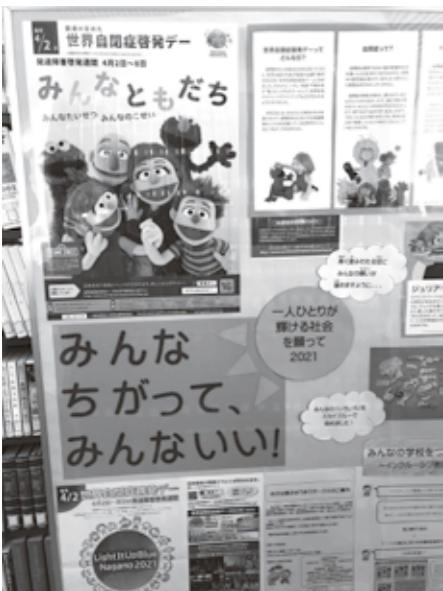
継続的なサポートを続けるようしています

第6次小布施町総合計画の基本計画の「出産・子育て・教育」には「誰もが安心して学べる環境づくりとして、困難や生きづらさを抱える子どもたちを支援するとともに多様な特性を尊重し、育める居場所づくりや教育環境づくりに取り組みます」との記述があります。児童生徒個々の教育的ニーズに応えうる多様な学びの場を整備することによって、それぞれの発達をきめ細かく支援することが重要です。そこで伺います。

関係機関との継続的な支援、切れ目のない支援や一人ひとりの教育ニーズに沿った指導に関して、医療機関や児童発達センターなど外部機関との連携がどのようになされているのか。また、担任及び学校関係者と保護者との良好な関係の構築やより充実した支援を受けられるために、教育を担う人材の育成を今後どのようなお考えか。
小中学校にそれぞれ知的障害・情緒障害クラスを設置するほか、小学校では特別支援教育支援員6名を配置し対応して

います。幼保には療育コーディネーター、作業療法士、保健師、教育支援相談員等でチームを組んで巡回訪問し、カンファレンスを行い具体的な支援を行っています。移行支援会議も行っています。人材育成については町単独と一言より国や県などにも取り組む課題であります。町でも教育相談員や臨床心理士・精神保健福祉士による指導や相談・研修も行っています。

士不足が一層深刻化し、保育の質の低下が懸念されます。また、保育士の離職率が高まる中、保育士の確保は喫緊の課題です。保育士は保育活動だけでなく、コロナ感染症防止における施設の衛生・安全管理や連絡帳などの文書作成、保護者対応など様々な業務をこなす必要があります。
保育における問題点を明確化し、保育の質を支える保育士の確保対策の強化が必要です。そこで、保育の質の確保について伺います。
保育士の確保は近年、保育需要に対して常にギリギリの状態が続いています。日常の保育における事務作業の簡素化を図ったり、パソコン活用など工夫しています。また、保育士の質の確保では様々な研修会への参加や研修などによりスキルアップを図っています。



～インクルーシブ教育～

保育の質の確保について

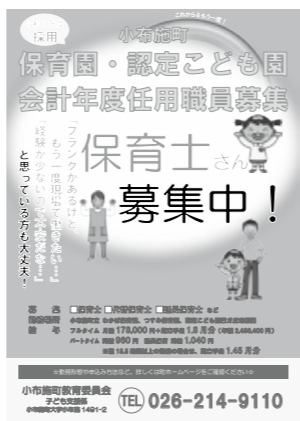
藤沢教育次長

保育士のスキルアップを図っています

二〇一九年十月より幼児教育・保育の無償化が実施されました。

幼児教育・保育の無償化の課題として、新たな利用希望や長時間保育が増え、待機児童問題や保育

絵本は、子供の情操教育にとっても大きな効果を及ぼすことは当然として、大人にも心を癒す効果があるといわれています。昔話や伝説・神話には、心の深い部分（深層心理）に触れるものもあり、それが大人の心の痛みを癒してくれるとのこと。絵本の持つ魅力を利用し、認知症予防対策として、社会参加を通じた自立支援を目的に、シニアの「絵本読み聞かせ養成講座」を開催し、ボランティアを養成してはどうでしょうか。
読み聞かせが、認知機能の低下に一定の歯止めがかけられたという結果があります。読み聞かせの効果の啓発に努め高齢者同士で読み手になったり聞き手になったりして意識の醸成を図りながら地域での脳のリフレッシュ教室の関係者や認知症カフェのボランティア活動において、よい取り組みとして紹介させていただき、読み聞かせの活動が自主的に広がるよう働きかけたいです。





小林一広議員

小布施橋の小布施側と豊野側の歩行者の安全の確保を

林建設水道課長補佐

小布施側は、案内看板にて対応
豊野側は、用地買収の得られていない。早期促進を要望

Q 最近、小布施橋の小布施側と豊野側の人の往来、通行が非常に増えています。歩行者の安全の確保が必要と考えています。

小布施側では、小布施橋の手前を堤防から堤防へ横断する人が増えております。小布施橋の橋下を通行できるようにすべきではないか。

豊野側では、小布施橋から国道に向かう間に歩道のない箇所があります。通学、通勤で利用されている方の安全を確保するため歩道の設置を提案しますが考え方について



豊野側の歩道の無い道路

いは、必要と考えるが。

A 小布施側の横断中に事故があつてはならないと考えます。マラソンのコースの利用を案内看板の設置により誘導をするなど対応をします。

豊野側の歩道は420m未整備。用地買収の協力が得られていないので、早期事業促進を要望しています。



小布施側の横断で危険な小布施橋



蓄電池として利用できる電気自動車

県・国の2050年度
二酸化炭素排出量ゼロ
に向け小布施町は
須藤企画政策課長
令和4年度から本格化を目指す
EV車は導入の検討する

Q ①県、国の宣言に対して小布施町も具体的な実施策を講じるべきと思うが。
②世界の流れは化石燃料車の販売をやめ電気自動車の普及に傾いて

いる。環境への対応や非常用電力としての重要性。小布施町も公用車を積極的に電気自動車に。
③家庭での普及をもっと高めていただくためにも電気自動車導入の補助金等は検討できないか。
④地球温暖化問題を一人ひとりに意識していただくためにも町民の方から金額の問題でなく小布施町の環境対策への協力金等の導入制度は検討できないか。
A ①「世界首長誓約」への署名を行い2030年に向けて動き出したところ。「気候変動エネルギー行動計画」の策定を行い令和4年度から本格化を目指します。
②周辺市町村の動向も参考にさせていただきながら、導入の検討を進めていきます。
③町独自の補助金となると財政的な観点から難しい状況。
④公平性の観点等から住民の皆様が理解を得ることは現状では難しいと考えます。
当面は、気候変動エネルギー行動計画を通じて、住民の皆様と意見交換を活発に行うことで、協働の在り方を模索していきたいと考えております。



小淵 晃議員

栗栽培の更なる振興のために

富岡産業振興課長

荒廃農地対策のためにも、
栗の普及をより進めます

Q 小布施町の農地面積は約806haで、そのうちで13haが「遊休農地」です。よって遊休農地の比率は約2%になります。ちなみに長野県は約19%、全国は約11%ですので、それと比較をしても低く立派な数値です。

小布施町が遊休農地を少なく抑えられているのは町の地形が松川扇状地であること、農作業の省力化の可能な栗畑への転用によるものと考えられます。小布施町の栗の栽培面積は68ha、収穫量は236tで、いずれも長野県で1位です。また、地元の「栗菓子店」へ高値で多量に販売できるという、他市町村にはない好環境下にもあります。

小布施栗のブランド力の維持向上と農家の収入を確保し、荒廃農地を作らないためにも、栗の普及をより進められることを望みます。

①町には栗苗の購入に對しての補助制度がありますが、今までの実績と成果として今後の対策についてはどのように考えていますか。

小布施栗のブランド力の維持向上と農家の収入を確保し、荒廃農地を作らないためにも、栗の普及をより進められることを望みます。

②栗の植栽が増えると並行して落葉の苦情も増えてきます。栗の葉は「よじれ葉」のため風に舞いやすい。特に春先は河川に舞い込んだ落葉は水路に詰まり越水被害を起こしています。解決策の一例としては「落葉の飛散防止ネット」の設置が考えられます。JAの栗部会・栗菓子店等と協議して補助金制度を考えてはどうでしょうか。
③最近「焼き栗」が新たな小布施の「名物」になっております。来訪者にとっては小布施の現地で栗を気軽に食べられるので好評です。また、先進者によって「栗拾い」の収穫体験ができる圃場を提供いただいています。「栗拾いの体験」は魅力的な観光資源だと思いい、組織的な取り組みの検討をお願いいたします。また、「栗拾い体験ツアー」は栗農家の「栗拾い」の労力の軽減にも貢献できるので実現を希望します。

A ①栗の苗木の補助事業は栗栽培の普及・促進を図るため今年で12年目になり、8千余本・453件の支援実績です。この事業の狙いは栗生産者の意識を高め栽培技術の向上や品質の向上、そして栗のブランド力強化のための取り組みは今後も継続していきたいと考えています。
②近年は生産者自ら「落葉の飛散防止ネット」を設置し、飛散防止に努めていただいている農家が増加しています。
更に栗部会の皆様と連携をしつつ、耕作者に周知をしまいいります。町としては幼木期までは支援をしますが、収穫ができようになつた栗畑は生産者の責任で管理をお願いしています。
③「栗拾い体験ツアー」は魅力的な観光資源と考えていますが、日々の入園者数が確保できないと採算が取れない、栗のイガによる危険防止対策などの課題があります。JA栗部会や栗を生産している皆様と連携を図りながら、「栗拾い体験ツアー」の実現に向け組織的な取り組みの動きがあれば、町としてもできる限りの支援に努めてまいります。



荒廃農地が立派な「栗園」に!!

小布施栗のブランド力の維持向上と農家の収入を確保し、荒廃農地を作らないためにも、栗の普及をより進められることを望みます。

小布施栗のブランド力の維持向上と農家の収入を確保し、荒廃農地を作らないためにも、栗の普及をより進められることを望みます。

小布施栗のブランド力の維持向上と農家の収入を確保し、荒廃農地を作らないためにも、栗の普及をより進められることを望みます。



寺島弘樹議員

評価、転換、決別等を明確にした未来型予算編成の構築及び新たな執行体制について

財務課長・
建設水道課長

予算編成は重要度等の視点から事業を査定、脱炭素社会の実現は、電力調達基準の調査を進めています。公共交通の活性化は、検討します

Q

新町長の元、「事業の棚卸し」が必要と考えます。新町長の公約、町政に関する意思を実践へと具現化し、事業執行へと落とし込んでいくことが、新町長を迎え、まず職員に求められるものと考えます。次年度予算編成については、新町長のキックオフ事業となり、一定の事業及び政策に再評価、転換、決別等となる予算編成に町民の大きな期待が集まるものと考えます。「種まき」事業着手構想から、骨太の予算構築に至るまで、事業評価をベースに限られた財源を捻出しつつ、編成すべき予算並びに事業の執行体制について伺います。



新規事業、重点事業並びに既存事業の再評価等による見直しを行った事業について伺います。

(1)新規事業等の内容について
新規事業、重点事業並びに既存事業の再評価等による見直しを行った事業について伺います。

業務プロセスの見直し、AI等先端技術の活用、新たな歳入確保策等により持続的な財政運営を目指す、「こうなったら

いいね」という、2030年の未来における予算の編成を期待します。

【提言その1】
「グリーン化」が日常用語となりつつあります。重要なことは宣言・スローガンのアピール性を超え、達成のための実効的な技術的・経済的視点と具体的な工程表を据えることと考え、提言します。

庁舎内での電力利用について、再生可能エネルギー等温暖化ガスを排出しない「ゼロエミッション電源」へ切替え、調達比率の向上を目指し、以降、炭素目標を掲げていくこととします。庁舎内で率先し、順次、町内の家庭・事業所等に再生エネの普及を促します。その他として、

・断熱リフォームによる省エネやエコ住宅への普及事業への取組み
・公共施設への太陽光発電の積極的導入等
【提言その2】
地域連携長野電鉄長野線沿線活性化協議会の機会を活用した交通基盤の整備・公共交通の活性化に

ついでの提言です。

コロナ禍を主因とした外出抑制等から公共交通における乗客の減少があります。「変動料金制」の導入について、来町者の多い小布施町が当協議会に検討等提案することを提言します。また、地域活性化策としての小布施・都住両駅での二次交通の整備及び貨客混載事業として、須坂市及び高山村観光協会と連携したeバイクでの楽々観光や、サイクリスト用自転車車の積込みにについても提言します。

(3)執行体制について
【提言】
平成29年3月策定した「小布施町公共施設等総合管理計画」を推進するため、横断的な組織の設置を提言します。

町有施設等の老朽化対策、既存施設の転用、共同設置等により、総量縮小を推進し、経営的視点に基づき施設全体のマネジメントを行い、財政負担の軽減、町有財産の総量縮小・利活用を推進することを組織設置の主旨とします。その推進

進組織の元、軽易な案件や具体的な協議を行い推進組織への提言を行う部会の設置も提言します。

A

(1)・(2)
必要性、緊急性を査定の視点とし、財政調整基金等の取崩し等も行い、縮小、廃止は行わず、必要な事業を編成しました。新規事業は、小・中学校特別教室のエアコン設置、重点として千曲川増水対策への取組み等々です。

(3)執行体制提言
公共施設の効果的運用を推進するための横断的組織の設置が必要と考えます。検討していきます。(財務課長)

【提言その1】
電力利用の見直しについては、太陽光発電の導入や消費電力の削減等検討を進め、電力調達は、環境基準の導入に向けた調査を行っています。太陽光発電導入は環境意識の高揚等から景観への影響を再度考慮し、検討します。(総務課長)

【提言その2】
当協議会における「変動料金制」の提言は、事業の経営面に及ぶことからすべきものでないと考えます。なお、貨客混載等の提言も、現在のコロナ禍の状況では提案が難しいと考えています。(建設水道課長)

活動日誌 研修会 視察会

昨年度から今年度にかけて「新型コロナウイルス感染症拡大防止」で町行事やイベント、集会などの多くが自粛や中止を余儀なくされています。そして、ソーシャルスタンスが当たり前となり、人と人が距離を置き、交流、行動に注意を払わなければならない日常が続いています。

議会においても様々な行事や活動が制限される中ではありますが、オンラインでの活動やリモートワークなど、新たな形で活動に取り組んでいます。

県町村会、県町村議長会で 各県庁へ要望運動

令和二年十一月十三日
農林水産省、林野庁、国土交通省、厚生労働省、総務省へ



県町村会、県町村議長会で 県選出国会議員への要望運動

令和二年十一月十三日
全国町村会館
県選出国会議員十一名と意見交換を行う

県知事への要望活動

令和二年十一月十八日
長野市 ホテル犀北館



町村議長全国大会

令和二年十一月二十五日
NHKホール



信州医療センター運営協議会

令和三年二月九日
信州医療センター

町議会議員研修会

令和三年二月十二日
小布施町講堂
講師 宮崎康史氏
長野県町村議会議長会



須高広域消防運営協議会

令和三年二月十七日
須坂市消防本部

北斎館理事会・評議員会

令和三年三月十一・十二日
北斎館